

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョブサU18立川南口教室		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		2025年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70名	(回答者数) 40名
○従業者評価実施期間	2025年2月17日		2025年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コミュニケーション能力の向上を中心としたトレーニングを提供している。	保護者/ご本人のニーズが、発信力や会話力・質問力の強化、聴く力を養うなど多岐に渡っているが、根本であるコミュニケーション力へのアプローチを重点的に行うことができている。	個々の苦手や課題にあわせた支援内容をどのスタッフもできるよう、支援力の向上を図る。
2	児童発達支援から放課後等デイサービス、就労移行支援まで、お子様の成長を多角的にサポートする各業態を運営している。	移行時期にはスタッフ間で情報共有を行ったり事前見学の機会を設ける事でスムーズに移行できるよう工夫をしている。	受入側として定員でお待ちいただく事がある為、こまめに情報発信をしながら見通しを持てるように徹底していく。
3	給付管理業務を本部で一括している為、直接支援を優先した動きを取ることができている。	他事業所との請求関連の連絡も本部で行っている為、やり取りがスムーズで効率化を図ることができている。	現時点では請求書の発行は教室業務としている為、その部分も切り分けられるよう、検討を重ねていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団療育のみの提供を行っている為、個別指導の希望に応じる事が出来ていない。	個別トレーニングと異なり集団トレーニングでは活動プログラムを予め定めている為、個々の要望を直接的に長時間取り入れることが困難な場合がある。	集団活動の中でも個々のニーズにあわせて充実したアプローチができるよう、提供に工夫を凝らす。 また、提供人数が少ない時には出来る限り個々に対応できるよう準備を行う。
2	保護者の方との連絡ツールが電話か書面のみである。	情報発信や連絡のやり取りが全て電話での対応となっており、保護者の方からメールでのやり取りはできないかのご要望を受ける事がある。	法人として、利用日の確認・欠席連絡・イベント等の出欠管理が、保護者の方にとって少しでも楽になるよう、来年度中には、システムの導入が実現できるよう現在準備中。
3	他関係機関や地域資源とのつながりが十分でない。	保護者からの連携の要請がなかった事や地域の保育所や幼稚園、障害福祉サービスとの交流があまりない事から、すぐに連絡をとって情報共有という体制が取りづらい場合がある。	必要になったときにすぐに連絡が取りあえるよう、日頃から事業所間の事例検討会などに積極的に参加し、関係作りに努める。また保育所等訪問支援事業などを通して学校と連携しやすい関係作りを構築していく。